

## B型肝炎 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

### 【どんな病気？】

B型肝炎ウイルスが血液や体液を介して感染して起きる肝臓の病気で、感染した時期や健康状態によって、一過性の感染に終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。また、経過の違いから、急性肝炎と慢性肝炎があり、急性肝炎は稀に劇症化する場合もあることから注意が必要です。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人は肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

### 【どんなワクチン？】

組み換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）は、世界の180か国以上で使用されており、効果と安全性が高い不活化ワクチンです。ワクチン接種による抗体獲得率は40歳までの接種では95%と報告されています。一方、予防接種を受けても、体質や体調によって免疫ができないことがあります。また、ワクチン3回接種後の感染防御効果は約5年間続くと考えられています。

### 【副反応は？】

10%前後に倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、硬結等の症状が認められます。また、稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（接種後30分以内に出現する呼吸困難などの重いアレルギー反応）、急性散在性脳脊髄炎（免疫力の異常で自分自身の体を攻撃して起こる脳や脊髄の病気）がみられることがあります。

### 【その他】

ワクチン（ヘプタバックス）のバイアルのゴム栓には、天然ゴムが含まれていますので、ラテックス過敏症（天然ゴムの製品に対する即時型の過敏症です）のある方が接種を受けるとアレルギー反応が現れる場合がありますので、接種前に医師にご相談ください。

### 【接種対象年齢・回数・間隔等】

#### ① 定期接種（大阪市の場合）

予防接種名	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	接種間隔
B型肝炎	生後1歳に至るまで	生後2から9か月	3回	1回目
				2回目
				3回目
				27日以上の間隔をあけて2回
				1回目から139日以上の間隔をあけて1回

平成28年10月からB型肝炎は定期接種になりました。すでに任意接種としてB型肝炎ワクチンの接種を受けたことがある方は、接種した回数分の接種を受けたものとみなします。

#### ② 任意接種（上記定期接種の対象年齢を外れた方）

予防接種名	接種対象年齢又は対象者	回数	接種間隔	当センター接種料金
B型肝炎	医療従事者、海外長期滞在者など	3回	4週間隔で2回、その後20～24週を経過した後に1回	1回 ¥8,000

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

# 各ワクチン共通の説明書

## 1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
  - (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。(成人で母子健康手帳のない場合は結構です。)
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
  - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
  - (3) 予約票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

## 2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹 (治ってから 4 週間程度)	風しん、水痘、おたふくかぜ (治ってから 2~4 週間程度)
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑 (治ってから 1~2 週間程度)	普通感冒や上気道炎 (治ってから 1 週間程度)

## 3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー(接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある人。
- (4) BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

## 4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもってからご来院ください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間(症状が出ない期間)中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG 接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

## 5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意してください。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (4) 高熱、おう吐、けいれん(ひきつけ)など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

## 6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため 27 日以上間隔をあけてください。不活化ワクチン接種の場合は、約 1 週間経てばワクチンによる反応がなくなるため 6 日以上間隔をあけてください。

予防接種の種類	間隔
【生ワクチン】 結核(BCG) 麻疹風しん混合(MR) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 水痘(みずぼうそう) ロタウイルス(1 価・5 価) 黄熱	27 日以上の間隔をあける
【不活化ワクチン】 4 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2 種混合(ジフテリア・破傷風) 破傷風 ポリオ 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌 b 型) 肺炎球菌(13 価・23 価) HPV(ヒトパピローマウイルス) インフルエンザ A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌	6 日以上の間隔をあける

同時に複数の種類のワクチンを接種後に他の種類のワクチンを接種する場合も上記表のとおりです。なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。